

中食・惣菜市場 日本・中国の比較研究  
- 中国山東省済南市と日本神奈川県川崎市の比較 -

4年 古市芳明

概要

今日の日本、健康を維持する観点では、食は有り触れているといえる。そして、社会環境の移り変わりとともに、中食・惣菜の需要が増加している。中食・惣菜市場は拡大を続け、約 10 兆円規模となり、内食・外食とともに食形態の一角をなし得るようになったといえる。中食の呼び名や形態の異差も一般に認知されるようになり、食品メーカーや小売業者等では、その存在感を理解して消費者ニーズを掌握すべく頻繁に市場調査を行っている。

現在日本は高齢化現象に直面していて、各企業は多大な影響を受けるようになり、その傾向は今後ますます厳しくなると予想されている。それは中食・惣菜関連企業の場合も同じであり、その解決策として新たな市場を開拓する必要性が生じていると考える。それで、近いうちに日本と同じ社会現象に直面すると予想されている中国市場を取り上げて、今後の中食・惣菜市場の開拓可能性について考えてみる。その研究比較対象としては、中国では最近急速に発展している山東省済南市を、日本では産業の構成及び年齢人口比率の類似する神奈川県川崎市を取り上げて考察してみる。

しかしながら、日本国内における中国都市部の中食・惣菜販売チャネルや商品展開に関する調査研究はほとんど無い。その為、筆者自分で中国現地の実地調査とアンケート調査を行い必要な研究資料を収集した。

本研究は、3章構成で、第1章、中食利点、及び需要増加の一般的な要因を調べて、日中の中食・惣菜市場の比較枠組みと中食の流通販売チャネルと環境要因について分析してみる。第2章では、流通販売チャネルについて比較考察を行う。両国の小売業・惣菜市場の発展過程と、現在の流通販売チャネルについて比較してみる。第3章では、日中の環境要因について比較考察を行う。初めに食事形態の立ち位置を日中の食事機会別の消費金額内訳の比較を行い、次に日本での惣菜需要増加の要因「女性の社会進出・高齢化・単身世帯の増加」と他の要因について中国の社会変化の推移と今後の傾向から考察してみる。外